科目名	老年看護学実習Ⅲ Gerontological Nursing Practice Ⅲ	担当教員 (研究室番号)	未定	教員への連絡方法 (メールアドレス)	

履修年次	2年次 前期	科目区分	専門科目	選択区分	コース必修	単位数 (時間)	4(120)	授業形態	実習	科目等履修生	否
										遠隔授業	否

科目目的	高齢者が地域において心身の健康を保持し、その人らしく生活する上で必要な援助を包括的かつ継続的に提供するために、慢性期における老年看護に関する既習の知識や技術を統合し、高齢者の生活機能や、病態像をふまえた治療・薬物療法等、ケアとキュアの両側面から包括的にアセスメントした上で、老人看護専門看護師に求められる役割機能について、実践を通して学ぶことを目的とする。 なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「慢性期における老年看護に関する実習」に相当する科目である。	
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	７．看護学の特定分野における卓越した看護実践能力を修得している。
	関連するDP	２．豊かな人間性と倫理観を身につけ、看護専門職としてリーダー的役割が担える指導力やマネジメント力を身につけている。
到達目標	１．慢性期特有の複雑な課題を有する高齢者と家族を担当し、高齢者の生活機能や、病態像をふまえた治療・薬物療法等について包括的にアセスメントした上で、根拠に基づく高度な看護援助を実践することができる。 ２．慢性期特有の課題を有する高齢者や家族への援助において、老人看護専門看護師の機能と役割を実践することができる。 ３．高齢者に関連する課題やニーズに対して、老人専門看護師の機能・役割を総合的に用いた介入を行うことができる。 ４．慢性期特有の課題を有する高齢者や家族を支援すると同時に、看護師個人、看護チーム、多職種チーム、組織全体に対しても老人看護専門看護師の機能と役割を実践することができる。	

成績評価方法 (基準)	・行動目標に沿って、専門看護師としての基礎的な実践能力の修得を『老年看護学実習Ⅲ評価表』を用いて評価する。 ・事前学習、実習内容、カンファレンスでのディスカッション、実習出席状況、実習記録、実習後の課題レポート、自己評価、実習成果報告会、実習施設の指導者からのコメントを含めて総合的に評価する。
教科書	随時紹介する。
参考書等	随時紹介する。
受講者へのメッセージ	慢性期の特徴をふまえた高度な看護を高齢者と家族に提供する実践力と、多職種チームにおいて老人看護専門看護師の役割を果たすことができる実践力を身に付けてください。
備考	

学　習　内　容

※実習内容の詳細は「老年看護学実習Ⅲ 実習要項」を参照のこと

１）実習期間
「慢性期における老年看護に関する実習」として、4単位(120時間)を基本とした実習を行う。

２）実習施設
・社会医療法人畿内会 岡波総合病院（住所：三重県伊賀市上野桑町1734、電話：0595-21-3135）
・JA三重厚生連 鈴鹿中央総合病院（住所：三重県鈴鹿市安塚町山之花1275-53、電話：059-382-1311）
・独立行政法人国立病院機構 京都医療センター(住所：京都府京都市伏見区深草向畑町1-1、電話：075-641-9161)
・地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンター
（住所：奈良県磯城郡田原本町多722、電話：0744-32-0200）

３）事前学習
・これまでの講義と演習で修得した内容を統合し、事前レポート、実習計画書、実習記録類一式を作成する。
・実習計画書の作成にあたっては、実習施設との調整を主体的に行う。
・実習記録類の作成にあたっては、指導教員および実習指導者のスーパービジョンを受ける。

４）実習内容
老人看護専門看護師が所属する施設において、老人看護専門看護師の指導の下に、看護援助を実施する。
・慢性期特有の複雑な健康課題を有する高齢者と家族を担当し、病態像をふまえた治療・薬物療法等を含め包括的にアセスメントした上で、根拠に基づく高度な看護援助を実践する。
・慢性期特有の課題を有する高齢者や家族への援助において、老人看護専門看護師の機能と役割を実践する。
・高齢者に関連する課題やニーズに対して、老人専門看護師の機能・役割を総合的に用いた介入を行う。
・慢性期特有の課題を有する高齢者や家族を支援すると同時に、看護師個人、看護チーム、多職種チーム、組織全体に対しても老人看護専門看護師の機能と役割を実践する。

５）実習の進行
・実習要項参照